

在宅勤務で新たな役割

新型コロナウイルスの拡大により、県内外で各種イベントの中止が続いた。人や物の動きも鈍り、警備業界は厳しい状況が続く。一方で、テレワークなど生活様式の変化に

道標 再興への トップインタビュー

対応したセキュリティ需要も生まれつつある。新潟総合警備保障(新潟市東区)の廣田幹人社長(58)は「今までの概念にとられない安心・安全サービスの提供が求められる」と展望する。

新潟総合警備保障社長

廣田 幹人氏(58)



テレワークなど生活様式の変化に対応した安心・安全サービスの必要性を語る新潟総合警備保障の廣田幹人社長＝新潟市東区

防災、見守り安心を提供

「イベント系の仕事はほぼなくなった。マラソン大会、コンサート、花火大会とあらゆる行事がとりにやめになった。スポーツの試合が無観客で行われたことも痛かった」

「新型ウイルスの業務への影響は。」「イベント系の仕事はほぼなくなった。マラソン大会、コンサート、花火大会とあらゆる行事がとりにやめになった。スポーツの試合が無観客で行われたことも痛かった」

「売上高でいうと、おおむね10〜15%は減った。大きいのは、施設管理を請け負う空港業務の減少だ。新潟空港発着便の運休で、乗客の荷物検査やボディチェックを行う機会が減った。人や物が動かなくなると、警備業は厳しい」

「在宅勤務などテレワークの普及で、警備業の役割はどう変化しますか。」「自宅で仕事をこなすには、ある程度の業務情報やデータを持ち帰らなければならなくなる。その観点から、部屋単位でのセキュリティが必要になる。そこまで必要かという意見もあるだろうが、ふらっと訪れた知人が部屋の中に入ってしまう恐れもある。顔認証などの機能を備えた入退

い」

「主力のホームセキュリティ事業をめぐる状況は。」「契約数に大きな変化はないが、高齢者宅を見守り、火災や体調不良などの際にはガードマンを呼べるサービスへの関心が高まっている。感染予防のための巣ごもりで、親子を訪れることができない人たちも多いからではないか」

「在宅勤務などテレワークの普及で、警備業の役割はどう変化しますか。」「自宅で仕事をこなすには、ある程度の業務情報やデータを持ち帰らなければならなくなる。その観点から、部屋単位でのセキュリティが必要になる。そこまで必要かという意見もあるだろうが、ふらっと訪れた知人が部屋の中に入ってしまう恐れもある。顔認証などの機能を備えた入退

室管理システムの需要が高まると見込んでいる」

「オフィスの警備が重要となってくる。出勤者が減っている分のセキュリティをカバーしようと、監視用カメラの引き合いが増えている」

「今後力を入れていく取り組みは。」「子どもたちの安全を守るニーズが高まっている。防犯ブザーやGPS(衛星利用測位システム)を備え、ガードマンへの緊急通報もできる専用機器の普及を図っていく。子ども向けの防犯教室も積極的に取り組んでいきたい」

「地震や水害などが頻発しており、災害時にさまざまな役割を果たせる。犯罪が起きず、安心して過ごせるように避難所を運営するためのノウハウを提供したい。ビルやマンションに閉じ込められないかななどの見回りも行い、地域の安心安全を守るため力を尽くしたい」

「子どもたちの安全を守るニーズが高まっている。防犯ブザーやGPS(衛星利用測位システム)を備え、ガードマンへの緊急通報もできる専用機器の普及を図っていく。子ども向けの防犯教室も積極的に取り組んでいきたい」

(報道部・小林純) ー 随時掲載 ー